

【別府市教育委員会】

校務DX計画

≪ 目的 ≫

文部科学省は、「GIGAスクール構想の下での校務DXについて」において、「クラウド環境を活用した業務フロー自体の見直しや外部連携の促進、データ連携による新たな学習指導・学校経営の高度化の方向性」を示しました。

別府市教育委員会においても、これまでのGIGAスクール構想推進の中での校務DXを通して、教員の働き方改革をさらに推し進め、校務の効率化を推し進めるとともに、教員が児童生徒と向き合う時間を生み出すことを目指します。

≪ これまでの取組 ≫

- 大分県教育委員会と連携を取りながら校務支援システムを導入し、教員が行う事務処理を一元的に行うことにより、校務のデジタル化を図ってきました。
- 学校と家庭の連絡ツールを活用し、学校から家庭への連絡や家庭から学校への欠席連絡等の負担の軽減を行いました。
- 別府市教育委員会が開催する各種研修会や講演会等のオンライン開催やハイブリッド開催を推し進めました。
- 学校間や学校と市教委間の連絡等を電子化し、ペーパーレス化の推進を図ってきました。

≪ 取組計画 ≫

- 校務支援システム内の教師間の連絡ツールや掲示板等を活用して各種資料の共有化を行うなど、校務支援システムのより一層の活用を図ります。
- 押印やFAXの使用の削減を考慮し、文書や連絡事項等の各種連絡の電子化を行うことで、一層のペーパーレス化を進めます。
- GIGAスクール構想に伴う事務処理の役割分担を行い、一部の教員に負担が集中しないような負担軽減を図ります。
- MEXCBT等のCBT(Computer Based Testing)の活用や自動採点システム導入検討等を通して、教員の採点業務の軽減を図ります。
- 学校会計システムによる学校内の会計業務の軽減を検討し、教員、児童生徒、保護者の負担軽減の在り方を探ります。
- 学習e-ポータルを活用や、その他のアプリケーションを活用した、児童生徒の成長を統合的に視覚化できるダッシュボードの在り方を検討します。
- 教育情報セキュリティに配慮しながら、校務系システムと学習系システムの連携を模索し、育児・介護等に配慮したリモートワークも考慮したロケーションフリーの在り方を検討します。
- 教育情報セキュリティを確保した、ネットワークのクラウド化の在り方を検討します。